

EIS運用と共同観測

原 弘久

国立天文台

EIS運用の現状

- 搭載装置に問題はない
- 地上系ソフトの問題
 - 観測支援プログラムの問題
 - ・大半はこれまでに修正済み。
 - ・機上機能に一部制約。→将来的には改善
 - ・機器調整用の運用支援機能が未搭載。
 - ・一日に3時間程度観測できない状況。→近々改善の予定
- EIS CO 日英米で1/3年ずつ分担
 - 目的に応じて、既に準備された(or自分で用意した)スタディ(観測シーケンス)を時系列に並べて一日の計画を作成するのが主な仕事。終了直前にはチームの予定を考えて翌週の観測案を提示。

訓練済み : 今田、神尾、原、松崎、渡邊
第3次予定: 坂東、秋田、横山、浅井

データ解析について

- SSW: eis_prepによる前処理プログラムVer.1完成。
 - 輝線の解析は個々で行っている状況。簡易的な手法はSOLAR-B講習会マニュアルにて公開。
-
- 解析する際に輝線のブレンドについての理解が必要。
 - 輝線中心位置が一軌道周回中にp-pで70km/s程度変動。補正方法を調査・構築中。
 - 装置起源の輝線幅については調査中。絶対値については、乗鞍、EUNISとの共同観測により確認する必要あり。
 - 内部アライメント:4つのスリットの位置関係は理解。
 - 対外アライメント:SOT,XRTとの平均的な位置関係は理解。軌道変動分の調査は清水氏による調査のみ。クロスチェックを開始する。スリット観測については簡単ではないだろう。

共同観測

「ひので」外との共同観測

- 飛騨 – EIS: 渡邊により昨年実施。
- EIS – SUMER: 本年4月に実施予定。
- EIS – 乗鞍: 原により提案。EIS SSCにより提案は承認。

- EISに対する観測提案は、Culhane, Watanabe, Mariskaに送付する。「ひので」ホームページを参照のこと。